

四半期レポート

2025年10月～2025年12月

足元のパフォーマンスと今後の運用方針

米国マイクロキャップ株式ファンド
追加型投信/海外/株式



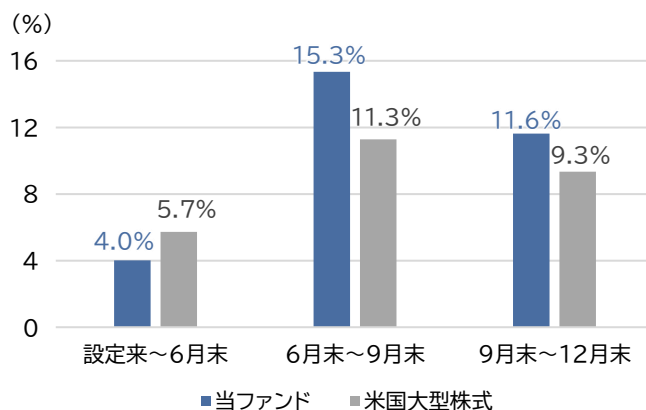
市場環境と当ファンドの足元の運用状況

人工知能(AI)関連銘柄以外に物色の動きがみられた米国株式市場

2025年10月に発表された米消費者物価指数(CPI)が予想を下回ったことなどから、利下げ期待が高まったことで米国株式市場は上昇しました。その後、11月中旬にかけては、①連邦政府機関の一部閉鎖解除後の統計データを見極めようとする投資家の様子見姿勢、②10月までの相場をけん引してきたAI関連銘柄への高値警戒感、③複数のFOMC(米連邦公開市場委員会)メンバーが追加利下げに慎重な姿勢を示したことなどから軟調な展開となりました。しかし、政府機関閉鎖の解除後に発表された9月の小売売上高が伸び悩んだことや、失業率が約4年ぶりの高水準となるなど労働市場の減速傾向が確認されたことなどから、追加利下げ期待が高まり、米国株式市場は反発しました。その後も、12月のFOMCで政策金利が0.25%引き下げられたことを受け、市場はおおむね堅調に推移しました。

当ファンドは、利下げ期待、投資家によるAI関連銘柄以外への物色の広がりなどによる恩恵を受け、10-12月期では大型株式を上回るリターンとなりました。

2025年の当ファンドと米国大型株式の騰落率比較



※米国大型株式:S&P500種指数、円換算ベース(配当込み)

※当ファンド設定日は2025年3月18日

※当ファンドは年率1.958%(税抜1.78%)の信託報酬控除後

(出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

基準価額と純資産総額の推移

(期間 2025年3月18日～2025年12月30日、日次)



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.958%(税抜1.78%)の信託報酬控除後です。

※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

パフォーマンスに影響を与えた主な銘柄



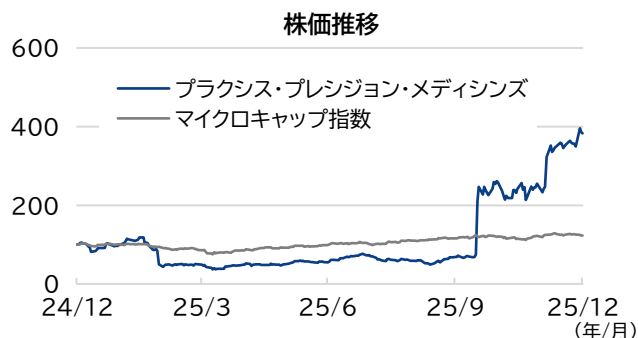
遺伝子情報を武器に、てんかん治療の新時代を切り拓く

プラクシス・プレジジョン・メディシNZ（ヘルスケア）

遺伝子情報を活用した精密医療に特化するバイオ医薬品企業です。主にてんかんなどの中枢神経疾患向け治療薬に特化しています。

投資のポイント

- ・ 同社は、希少疾患に特化した明確な開発ターゲットを有し、臨床試験の進捗が企業価値に直結しやすい事業構造を構築しています。
- ・ 高度な専門性を備えた研究体制と、中枢神経系疾患に焦点を当てたパイプラインの選択と集中により、中長期的な価値創出が期待されています。



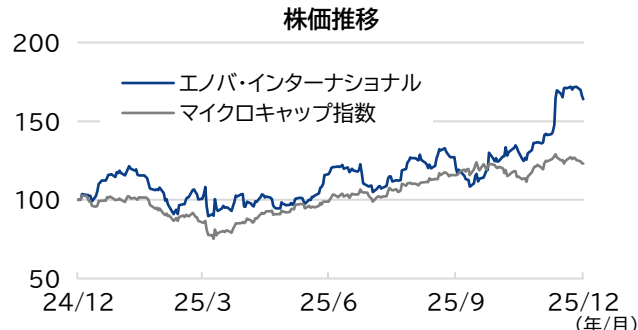
オンライン金融サービス会社

エノバ・インターナショナル（金融）

独自のデータ分析技術を基盤としたオンライン消費者金融サービス提供会社です。個人向けローンなどを取り扱い、主に米国を中心に事業を展開しています。

投資のポイント

- ・ 同社は、膨大な顧客データと自社開発のアルゴリズムによる高精度な与信判断に強みを持ちます。独自のAIモデルにより、信用力が不十分とされる借り手層へも対応し、高い承認率を実現しています。
- ・ 過去5年間の年間売上高成長率が25%を超え、キャッシュフローも安定しています。こうした財務健全性や景気変動する局面でも収益性を維持できるビジネスモデルを評価しています。



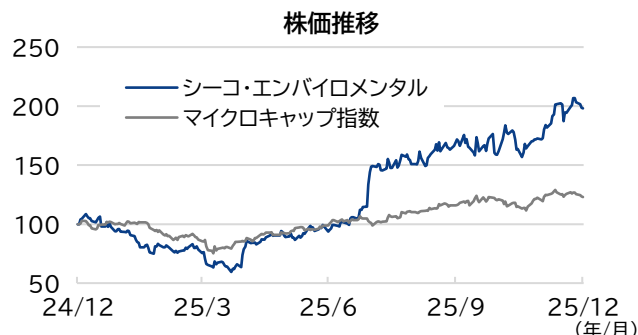
環境に焦点を当てた多角的産業会社

シーコ・エンバイロメンタル（資本財・サービス）

産業用空気、産業用水とエネルギー転換市場の各分野にグローバルにサービスを提供し、ソリューションとアプリケーションの専門知識を提供しています。

投資のポイント

- ・ 同社は、環境規制の強化や設備更新需要などを背景に、ニッチ分野での技術力と案件対応力を発揮しています。
- ・ 過去5年間の年間売上高成長率は15%を超え、足元ではROIC(投下資本利益率)も上昇傾向にあります。こうした財務内容の良好さや買収を通じた事業領域の拡大が進展しており、中期的な成長余地に着目しています。



※株価推移期間：2024年12月31日～2025年12月31日、日次

※マイクロキャップ指数はラッセルマイクロキャップ指数

* 上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および当ファンドへの組入れを保証するものではありません。

※2024年12月31日を100として指数化

(グラフ出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

今後の市場見通しと運用方針

高い利益成長率や物色の広がりが米国小型株式への追い風に

今後の米国小型株式市場は、以下2つの観点から、引き続き魅力的な投資環境であると考えています。

当運用チームは、企業のファンダメンタルズを重視する市場の動きが始まっていると考えていることから、財務内容が良好で競争優位性、成長性、収益性の高い**ハイクオリティ企業**(ニッチな産業のリーダー企業)へ引き続き投資を行っていく方針です。

① 米国大型株式を上回る利益成長率の高さ

米国小型企業は米国内売上比率が高く、内需系の企業が中心のため、米国景気動向に左右されやすい傾向があります。2026年は、インフレ動向など注視すべき点もありますが、トランプ政権の減税政策の波及効果や、中間選挙を見据えた各種支援策などが、米国景気の押し上げに寄与すると考えています。そのため、米国経済は底堅く推移すると見ており、米国小型企業の業績にとって追い風となることが期待されます。

また、利下げにより金利低下が見込まれることも明るい材料です。米国小型企業は大型企業と比べて、銀行からの借入依存度が高く、支払利息を左右する金利は業績に影響を与える要因の1つです。そのため、資金調達コスト低下の恩恵をより大きく受けると考えられます。

米国経済の底堅さや金利低下が見込まれることなどから、**米国小型株式の1株あたり利益(EPS)成長率は大型株式を上回ることが予想されています。**

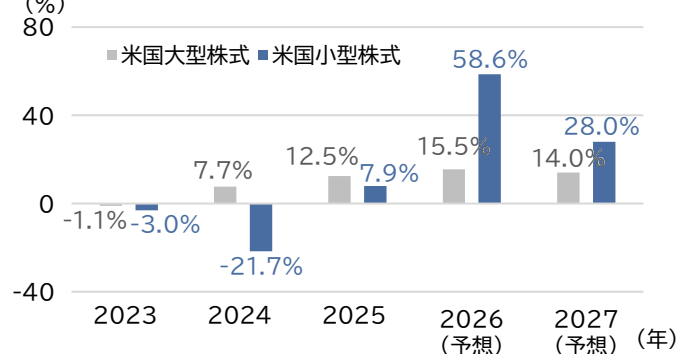
② 投資家によるAI関連銘柄以外への物色の広がり

足元の米国株式市場では、AI関連銘柄への懸念(巨額設備投資に対する過剰投資懸念、バリュエーションの高さなど)から、投資家がAI関連銘柄以外の投資先を物色する動きが広がっています。これは、長期的な歪み(特定のAI関連銘柄が主導する相場環境)からの正常化の動きであると考えています。

米国小型株式は、長らく高金利環境下で厳しい展開が続いていましたが、**米国大型株式を上回る利益成長率の高さや相対的に割安なバリュエーション**などから、投資先の1つとして選好されており、今後もそうした流れは続くと考えています。

1株あたり利益(EPS)成長率の推移

(期間 2023年~2027年、年次、予想を含む)



※2025年1月19日時点

株価収益率(PER)の相対比較

(期間 2001年1月~2025年12月、月次)



※株価収益率(PER)の相対比較は、株価を割高か割安か判断する指標の1つであるPERを用いて、米国小型株式のPERを米国大型株式のPERで割って算出

PICK UP

資金シフトがもたらす米国小型株式へのインパクト

米国小型株式は、わずかな資金の動きでも価格が大きく変動する可能性があります。2025年12月31日時点でマグニフィセント7構成銘柄の時価総額合計は、米国小型株式全体の約5.7倍に達しています。このため、マグニフィセント7構成銘柄から資金がほんの一部でも米国小型株式に再分配されれば、米国小型株式市場に対するインパクトは相当なものとなる可能性があります。

※米国大型株式:S&P500種指数、米国小型株式:ラッセル2000

(出所)ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド、Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

上記は、「米国マイクロキャップ株式マザーファンド」の運用委託先であるウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーのコメントを基に作成しています。

2025年 当ファンドの振り返り（当ファンド設定来*）

*2025年3月18日設定

「ジャンクラリー」的な局面が見られた2025年の米国小型株式市場

2025年の米国株式市場は、4月にかけてトランプ政権による関税の影響などが懸念され、下落基調となりました。その後、各国との関税交渉の進展やFRBによる複数回の利下げの実施などがプラス材料となり、堅調に推移しました。

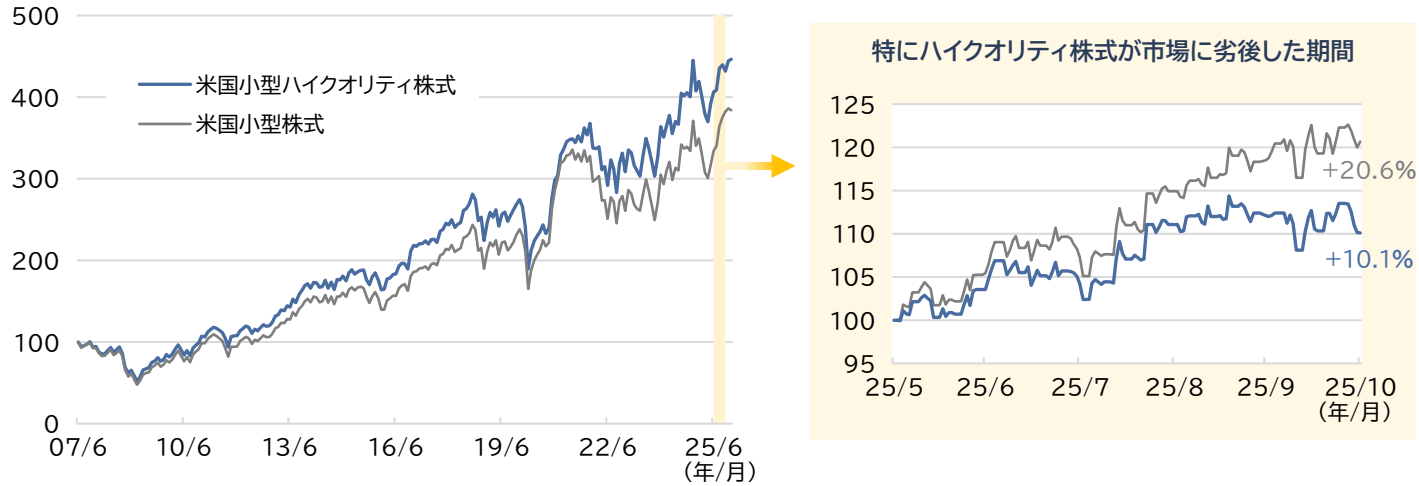
こうした投資環境において、当ファンドはOBBBA法案(1つの大きく美しい法案)通過や利下げ期待などが追い風となり、設定来(2025年3月18日)から2025年12月末までに+33.9%と、**S&P500種指数(+28.7%)を上回るパフォーマンス**となりました。

一方で、当該期間において参考指数(ラッセルマイクロキャップ指数)には劣後しました。その主な要因は、銘柄選択にあります。当ファンドでは、ハイクオリティ企業への投資を重視しており、収益性が低く価格変動が大きい企業は意図的に投資比率を引き下げています。

しかし、2025年の米国小型株式市場はこうした低クオリティ・高ボラティリティ銘柄が短期的な上昇をけん引する「ジャンクラリー」的な局面となり、当ファンドにとって逆風となりました。この動きは、投機的な個人投資家の存在、さらにはテーマ性の強いモメンタム(AI、量子コンピューティング、クリーンエネルギー等)などが背景に存在します。セクター別にみると、資本財・サービスやコミュニケーション・サービスなどでは銘柄選択が参考指数に対してプラスに寄与した一方、情報技術、エネルギー、一般消費財・サービスなどでマイナスに寄与しました。

ただし、上述した「ジャンクラリー」的な局面は持続性に乏しく、**ファンダメンタルズ重視の相場に回帰する**傾向があります。実際、長期的にみると米国小型株式市場では、ハイクオリティ企業のパフォーマンスが良好であり、**クオリティを重視した銘柄選択が良好なパフォーマンスにつながる**と考えています。

米国小型株式と同ハイクオリティ株式の比較



月次騰落率									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米国小型ハイクオリティ株式	-2.4%	6.0%	3.6%	0.6%	6.6%	0.9%	-1.8%	2.9%	0.5%
米国小型株式	-2.3%	5.3%	5.4%	1.7%	7.1%	3.1%	1.8%	1.0%	-0.6%
差	-0.1%	0.6%	-1.9%	-1.1%	-0.6%	-2.2%	-3.6%	2.0%	1.1%

※米国小型株式:ラッセル2000、米国小型ハイクオリティ株式:ラッセル2000クオリティファクター指数、ともに米ドルベース(配当込み)
※左グラフ: 期間 2007年6月~2025年12月、月次、2007年6月を100として指数化(取得可能な全期間)
※右グラフ: 期間 2025年5月31日~2025年10月31日、日次、2025年5月31日を100として指数化
※市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

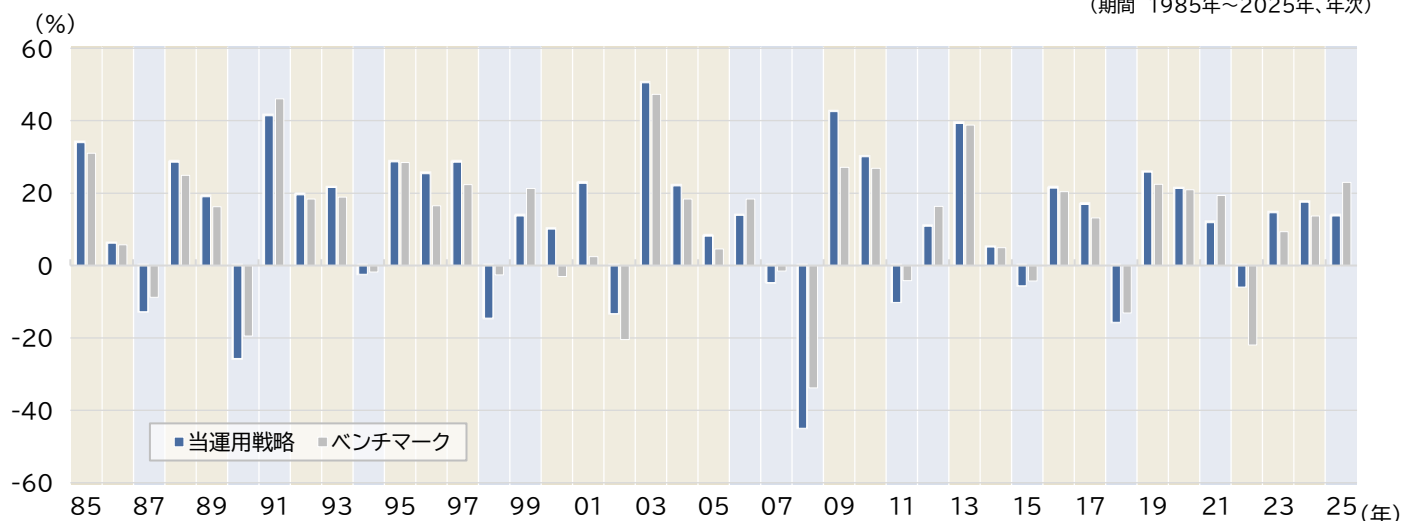
(出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

<ご参考> 当運用戦略の暦年パフォーマンス(米ドルベース)

当運用戦略は、41年にわたる運用実績において、**26回ベンチマークを上回るパフォーマンス**を達成しています。

■ 当運用戦略の年次騰落率(当運用戦略設定来)

(期間 1985年～2025年、年次)



当運用戦略が 市場に対して 優位であった期間

財務内容が良好で競争優位性、成長性、収益性の高い「ハイクオリティ企業(ニッチな産業のリーダー企業)」に選別投資することで、上昇年ではベンチマークよりも相対的に上昇率が大きくなりました。

当運用戦略が 市場に対して 劣後した期間

テクノロジー企業など特定の業種などが先導し、急成長する市場環境が挙げられます。こうした局面では、「ハイクオリティ企業」が市場の急上昇に追随していきにくい可能性があります。

<事例①> 1998年～1999年 ITバブル期

IT銘柄であればクオリティを問わず何でも株価が上昇する中、一部の低クオリティ・高ボラティリティ銘柄の非保有がマイナス寄与し、ベンチマークに対して劣後しました。

<事例②> 2021年 ミーム株ブーム期

個人投資家の買いによって一時的に大きく上昇したゲームストップ社の非保有のみでベンチマークに対して、マイナス2.6%の寄与となるなど、ミーム株が大きく買われる相場の中で劣後しました。

※ミーム株: SNS(交流サイト)への投稿で注目が集まり、個人投資家の積極的な買いで短期間のうちに株価が急騰する、いわゆる「はやり株」のこと。

※当運用戦略:「Emerging Companies」のコンポジットパフォーマンス(当ファンドの信託報酬相当(年率1.958%、税込み)控除後)。設定日:1984年12月31日

※ベンチマーク:2015年9月まではラッセル2000指数(配当込み)、2015年10月以降はラッセルマイクロキャップ指数(配当込み)を繋ぎ合わせたもの

※上記グラフで薄い黄土色でハイライトしている期間は、当運用戦略のパフォーマンスがベンチマークに対して優位であった期間

当運用戦略のコンポジットパフォーマンスを示したものであり、当ファンドの運用実績ではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

(出所)ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッドのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

<ご参考> 世界有数の独立系資産運用会社「ウエリントン」による運用

米国マイクロキャップ株式戦略に特化したスペシャリストによる運用

当運用チームは、リードポートフォリオマネジャーとして30年以上にわたり、米国マイクロキャップ株式市場にフォーカスしてきたデビッドを初め、ウエリントンに入社以降20年以上にわたり米国マイクロキャップ株式市場を分析・運用を行ってきたピーターなど**経験豊富なチーム**で構成されており、幅広い投資ユニバースへの深い知見を有しています。

加えて、ウエリントンのグローバルなプラットフォームである**全57名**からなる**グローバル産業アナリスト(GIA)**のリサーチをフルに活用することで**超過収益の獲得**を目指します。GIAは各セクターの専門アナリストを指しますが、企業経営陣との直接的な面談、業界構造の分析、サプライチェーンの調査など特定セクターへのリサーチの深度が非常に深く、特に「情報の非対称性」が指摘される米国マイクロキャップ株式市場においては、各セクター専門アナリストからのインプットはさらに重要性を増します。

各セクター専門アナリストからのインプットを最大限活用し、経験豊富な米国マイクロキャップ株式の運用者が銘柄選択を行うことこそ、この戦略の40年超の長期的なトラックレコードを支えてきた源泉であり、**競合他社と比較したときの優位性**であると考えています。



デビッド・B・デュバード

運用チーム
シニア マネージング ディレクター
ポートフォリオ・マネージャー
経験年数:34年
在籍年数:33年



ピーター・W・カルピ

シニア マネージング ディレクター
エクイティ・リサーチ・アナリスト
経験年数:24年
在籍年数:23年

「ウエリントン」の評価体系

ウエリントンでは、評価をファンド残高の大きさではなくパフォーマンスを基に行っています。特に特徴的なのは、ファンドのリターンに貢献したアナリストに対して、株式・債券を問わず部門を横断して報酬を支給できる制度です。この仕組みにより、アナリストのモチベーションが高まるだけでなく、優れた実績を持つ人材や長期にわたりアナリスト業務に専念する「生涯アナリスト」の育成にも大きく寄与しています。

米国マイクロキャップ株式戦略における「ウエリントン」の優位性

1 グローバルな調査体制の活用

米国マイクロキャップ株式戦略における競合他社の多くはブティック系運用会社です。当運用戦略における強みは、投資対象の米国マイクロキャップ企業の事業が大型企業の一部門と競合する際、グローバルな調査体制を有するウエリントンの大型株式アナリストの知見やネットワークを活用してより精緻な比較分析が可能になることです。

※ブティック系運用会社とは、少数のファンドを独自の運用スタイルで運用する会社のことを指します。

2 経営者の質まで見極める徹底した調査・分析

当運用戦略のプロセスはボトムアップによるファンダメンタルズ分析に加えて、定性面も評価しています。米国マイクロキャップ企業の今後の成長性を判断するうえでは、経営者の質も非常に重要であり、当運用チームは、年間750回を超える経営陣とのMTGを通じて経営者の性格まで確認を行い、成長性のある企業かどうかを見極めていきます。

さらに、前述したウエリントンのグローバルな調査体制を最大限に活用するうえ、投資先企業の取引先にまで「なぜその企業のサービスや製品を採用しているのか」、等をヒアリングし、確信度を高めたうえで投資を行っています。

※上記は2025年9月末時点

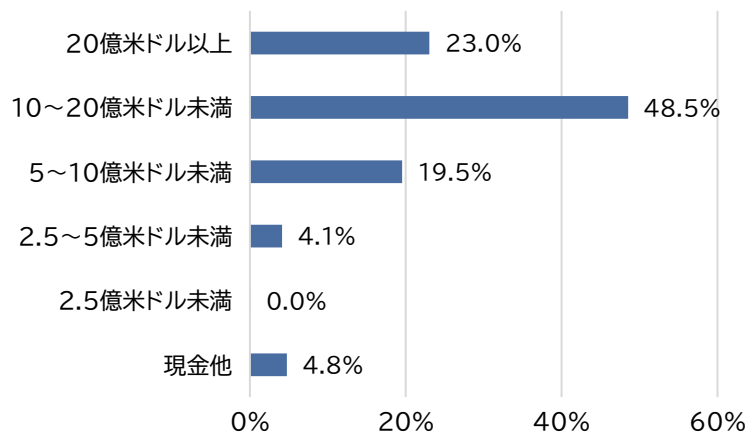
(出所)ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド

ファンドデータ (2025年12月30日時点)

■ 組入上位10セクター

	セクター	比率
1	ヘルスケア	23.8%
2	金融	20.4%
3	資本財・サービス	19.1%
4	情報技術	13.0%
5	エネルギー	9.2%
6	一般消費財・サービス	5.6%
7	生活必需品	2.3%
8	コミュニケーション・サービス	1.6%
9	素材	0.3%
10	—	—

■ 時価総額別構成比率



■ 組入上位10銘柄

	銘柄名	セクター	比率	銘柄概要
1	アトランティカス・ホールディングス	金融	2.1%	子会社を通じて、小売・ヘルスケア、ダイレクトメール勧誘、およびデジタルマーケティングなど複数のチャネルを利用して金融機関が発行する、プライベートブランドおよび汎用クレジットカードの提供に特化する。米国で事業を展開。
2	ソラリス・エナジー・インフラストラクチャー	エネルギー	2.0%	分散発電用の可動式および拡張性のある機器をベースとしたソリューションを提供。油田・天然ガス田完成に使用される原材料の管理も手掛ける。米国で事業を展開。
3	CECOエンパイロメンタル	資本財・サービス	2.0%	環境関連会社。空気清浄機器やソリューションを手掛ける。風量調節ダンパー、ダイバータ、産業用換気システム、サイレンサー、集塵機、その他関連製品を提供。世界各地で事業を展開する。
4	アーティビオン	ヘルスケア	1.9%	医療機器メーカー。大動脈疾患患者の治療における心臓・血管外科医の最も困難な課題を解決するシンプルでエレガントなソリューションの開発に注力する。主な製品は、大動脈ステント、ステントグラフト、人工心臓弁、冷凍保存された心臓・血管同種移植片、外科用シーラント。
5	センチュリ・ホールディングス	資本財・サービス	1.8%	子会社を通じて、電力・天然ガス供給網の保守、改造、設置などの公益インフラサービスのほか、クリーンエネルギー源への移行のためのシステムを提供する。米国およびカナダで事業を展開。
6	米連邦農業抵当公社	金融	1.8%	金融ソリューション会社。農業・インフラ事業向けの金融商品を提供する。米国で事業を展開。
7	アメレスコ	資本財・サービス	1.8%	総合電力エネルギー会社。提供するエネルギー・ソリューションは、熱電供給、水力、再生エネルギー施設など。
8	アンコール・キャピタル・グループ	金融	1.8%	債権買取会社。債務不履行となった受取債権のポートフォリオを銀行や信用組合、公益事業体から買い取る。また、個別の提携による債務返済、資金回収も手掛ける。
9	Dナウ	資本財・サービス	1.7%	エネルギーサービス会社。パイプ・バルブ・継手の各種部品、パイプ、バルブ、継手、測定装置、加工・安全機器、コンプレッサー、ブロワー、工業用電気・照明ケーブル、人工採油設備のほか、サプライチェーンおよび材料管理サービスを提供する。世界各地で事業を展開。
10	ベンチマーク・エレクトロニクス	情報技術	1.7%	受託製造サービス会社。電子機器の受託製造・設計サービスに従事。主な製品は、医療装置、工業用制御装置、検査・計器製品、通信機器など。製品の設計、プリント回路板組立、プロトタイプ、およびテストの開発サービスも提供する。

※銘柄は、新株等がある場合、別銘柄として記載しております。

※各比率は、米国マイクロキャップ株式マザーファンドの純資産総額に対する組入比率です。また、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※外国銘柄の日本語表記は、QuickFactSet、Bloombergを参照しております。

<ご参考> 当運用戦略(円ベース)の推移 (2025年12月30日時点)

■ 当運用戦略の長期パフォーマンス

(期間 1984年12月～2025年12月、月次)



リターン(年率)

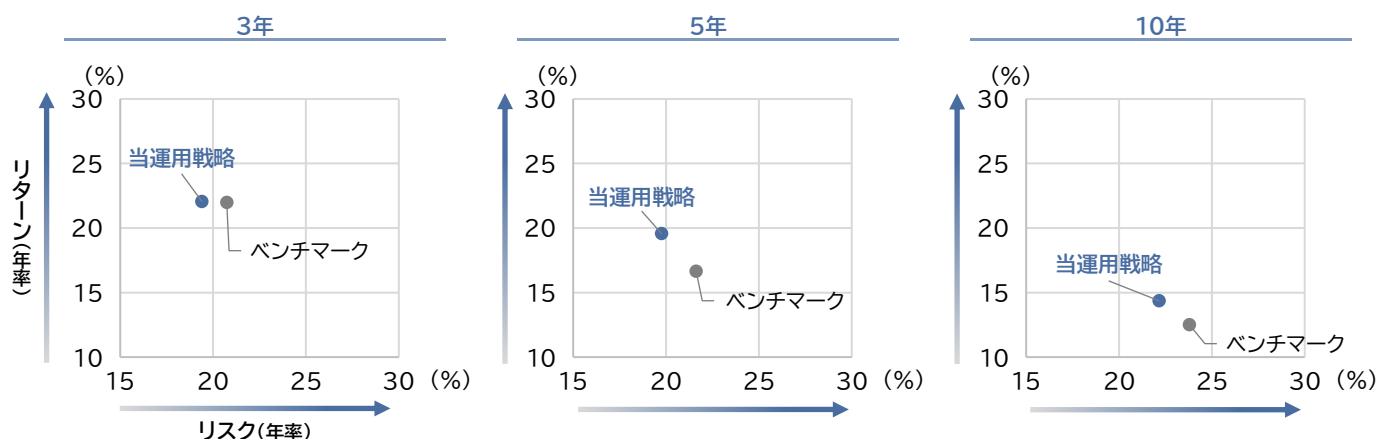
	1年	3年	5年	10年	設定来
当運用戦略	13.4%	22.0%	19.6%	14.4%	9.2%
ベンチマーク	22.7%	22.0%	16.7%	12.5%	8.5%

リスク(年率)

	1年	3年	5年	10年	設定来
当運用戦略	20.6%	19.4%	19.8%	22.2%	23.0%
ベンチマーク	22.3%	20.7%	21.6%	23.8%	23.4%

■ リスク・リターン(年率)

ベンチマークと比較して、高いリターンを獲得すると同時に、リスクを低く抑える結果となりました。



※上段の長期パフォーマンス推移:1984年12月末を100として指数化

※当運用戦略:「Emerging Companies」のコンポジットパフォーマンス(当ファンドの信託報酬相当(年率1.958%、税込み)控除後)。設定日:1984年12月31日

※ベンチマーク:2015年9月まではラッセル2000指数(配当込み)、2015年10月以降はラッセルマイクロキャップ指数(配当込み)を繋ぎ合わせたもの

当運用戦略のコンポジットパフォーマンスを示したものであり、当ファンドの運用実績ではありません。上記は過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

(出所)ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッドのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧 2026年1月21日現在

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
(登録金融機関)					
三井住友信託銀行株式会社	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

<当資料で使用している指数の著作権について>

米国マイクロキャップ株式ファンド(以下、「当ファンド」といいます。)の開発は、SBI岡三アセットマネジメント株式会社のみにより行われています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ会社(以下、総称して「LSEグループ」といいます。)は、いかなる形においても、当ファンドとの関係を有さず、またスポンサー、保証、販売もしくは販売促進を行うものではありません。FTSE Russellは、特定のLSEグループ会社の取引名です。ラッセルマイクロキャップインデックス(以下、「本指数」といいます。)にかかるすべての権利は、指数を保有する該当LSEグループ会社に帰属します。「FTSE Russell®」は、該当するLSEグループ会社の商標であり、ライセンス契約に基づき、他のあらゆるLSEグループ会社が使用します。本指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income, LLCまたはその関連会社、代理人もしくはパートナーによって、またはこれらからの委託を受けて算出されています。LSEグループは、(a)本指数の使用、本指数への依拠もしくは本指数の誤り、または(b)当ファンドへの投資もしくはその運用から生じる、いかなるものに対する責任も負うものではありません。LSEグループは、当ファンドから得られる結果、またはSBI岡三アセットマネジメント株式会社による提供の目的に対する本指数の適切性のいずれについても、主張、予想、保証、表明を行わないものとします。

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

ファンドの特色・お申し込みメモ

■ ファンドの特色

- 1 米国(一部カナダを含む場合があります。)の上場株式(これに準ずるものを含みます。)のうち、主として相対的に時価総額が小型の株式に投資します。
※実際の運用は米国マイクロキャップ株式マザーファンド(以下、「マザーファンド」といいます。)を通じて行います。
- 2 株式への投資にあたっては、競争優位性、成長性、収益性の高さを兼ね備えたニッチな産業におけるリーダー企業に着目し、ボトムアップ・アプローチにより銘柄を選別します。
 - 米国マイクロキャップ株式に対する独自の知見と企業調査力を活用した「ボトムアップ・アプローチ」を通じて長期的な成長の恩恵を享受することができる魅力的な投資機会の発掘を目指します。
- 3 マザーファンドにおける運用指図の権限の一部をウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに委託します。
- 4 株式の実質組入比率は高位を保つことを基本とします。
- 5 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

■ お申し込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位 ◆ 詳しくは販売会社にご確認ください。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金時	換金単位	販売会社が定める単位 ◆ 詳しくは販売会社にご確認ください。
	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
その他	課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

米国マイクロキャップ株式ファンドに関する留意事項

投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。

お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
- 換金手数料：ありません。
- 信託財産留保額：換金申込受付日の翌営業日の基準価額×0.3%
- 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.958%（税抜1.78%）

< 外部委託先報酬 >

マザーファンドの運用指図に関する権限を委託するウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーが受取る報酬は、委託会社が受取る信託報酬から支払われるものとし、計算期間を通じて毎日、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額に年率0.80%を乗じて得た額とします。

- その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）

○ お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。



商 号 等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

< 本資料に関してご留意いただきたい事項 >

■ 本資料は、当ファンドの商品説明を目的にSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。■ 本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■ 本資料中の記載内容、数値、図表等は、本資料作成日時点のものであり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 購入の申込みに当たっては、「投資信託説明書（交付目論見書）」及び「契約締結前交付書面」又は「目論見書補完書面」を十分にお読みいただき、投資判断は、お客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。